

LIVE KIDS

ご出演いただいた「出演者の方々」にアンケートを行いました。アンケート項目は下記。

☆1.LIVE KIDS とは？一言で表すなら、どんな言葉が浮かびますか？

☆2.LIVE KIDS へのコメント (Message)

Q1. 当事業 LIVE KIDS への参加のきっかけ、どういった想いを持ってエントリーされましたか？

Q2. 当時 LK に出演したことや、その後も関わっていただいた中で、「(その後に) 影響したこと」

「得られたこと」等はありましたか？ どういったことですか？

Q3.LIVE KIDS に関わった中で、印象に残ったコト・エピソードはありますか？

Q4. 今後、「当協会」および「事業」に期待する「コト」があればお伝えください。

※LK=LIVE KIDS(以下共通。)

トミタ ショウゴさん 第19・20回出演

現在はシンガーソングライター



LIVE KIDS とは？

「青春」

ベストボーカル賞受賞

Message:

歌い続けていく中で、また何か違う形でも、
力になれれば幸いです。
これからもよろしくお願ひ致します◎



ツバクラメ 川原田 祐馬さん 第21・25回出演

UTAFESS 賞受賞

今でもツバクラメで歌い続けています。



Message:

協会設立 30 周年おめでとうございます！LIVE KIDS に
たくさんの出会いとパワーをもらいました！今でも掛け替
えのない宝物です。

LIVE KIDS とは？

「来場者と出演者とスタッフが
一体となって創る LIVE KIDS！」

Q1 「きっかけ」

当時活動を始めてまだ間もない頃でしたので、多くの
方に観ていただける審査していただけるようなライ
ブ、経験を積みたいと考えていました。

Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

2年連続、ベストボーカル賞をいただいたのですが、
2年目は体調不良、高熱の中、参加しましたが、賞を
いただけて嬉しかった記憶があります。

Q2 「出演後に得られたコト」

その後の活動の中で、LK に携わっている方達とお仕
事させていただいたり再会があったり、たくさんの方
との縁をいただきました。

Q4 「期待するコト」

若者に夢や希望のきっかけになるようなイベント、
催し物。

Q1 「きっかけ」

ホールでライブがしたい！といった気持ちでした。

Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

来場者、出演者、スタッフ、みんな良い顔して話しか
けてくれた記憶が残っています。

Q2 「出演後に得られたコト」

LIVE KIDS で出会えたスタッフの方々や出演者、お客
さんは今でもかけがえのない宝物です。

Q4 「期待するコト」

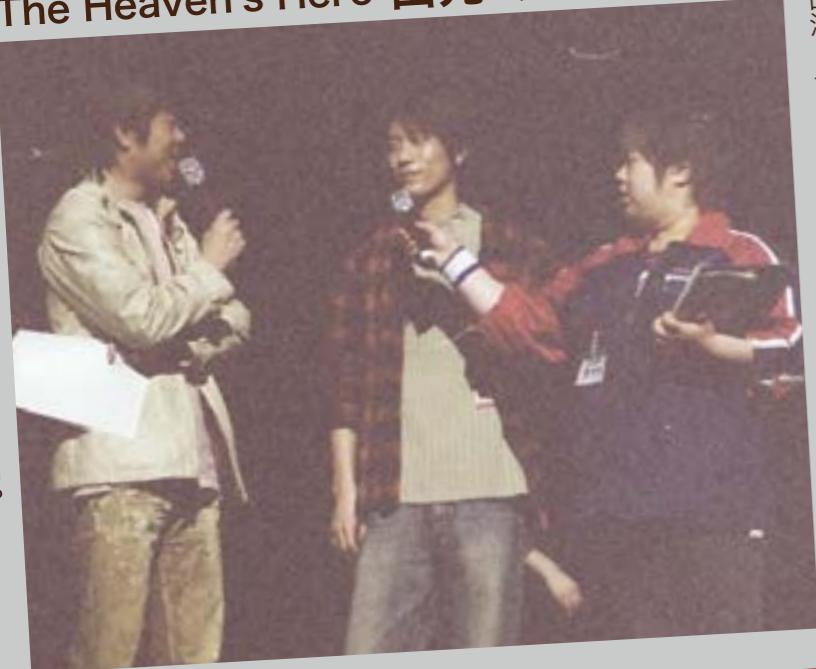
30歳までも、30歳以上にも、またホールでライブ
ができるようなチャンスがあったら嬉しいなと思
います。喜んでチャレンジします。

The Heaven's Here 山元 サトシ

第14回

出演

京都シティー賞
グランプリ受賞



現在はミュージシャンとして活動中。



Message:

私自身京都に生まれ育ちましたが、京都はやはり音楽に深い関わりを持った街です。そんな京都の街を盛り上げ、その魅力を内外に発信してゆけるのは他ならぬ私達自身だと思います。そんな想いを抱き、多くを積み上げてくださった先輩方たちの譲りを次の世代に伝え続けてゆかねばいけない。LKはそんなふうに思わせてくれたイベントでした。

運営スタッフの皆様に心より感謝申し上げます。

LIVE KIDS とは？

「人生の転機。」

Q1 「きっかけ」

高校のクラスメイトと組んだバンドで、思うような活動ができない、最初は試し心のような気持ちで応募しました。

Q2 「出演後に得られたコト」

やはり LK でいただいた京都シティー賞、とグランプリは自分達にとって大変大きな自信となりましたし、メンバーそれぞれの音楽に対する意識が格段に上がるきっかけとなりました。また、それが当時悩んでいた人との付き合い方などにも大きく影響し、それがとても社交的になったように思います。それは当時イベントを運営されていたスタッフさんたちのお陰かと思っています。皆さんには本当に親切にしていただきました。

Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

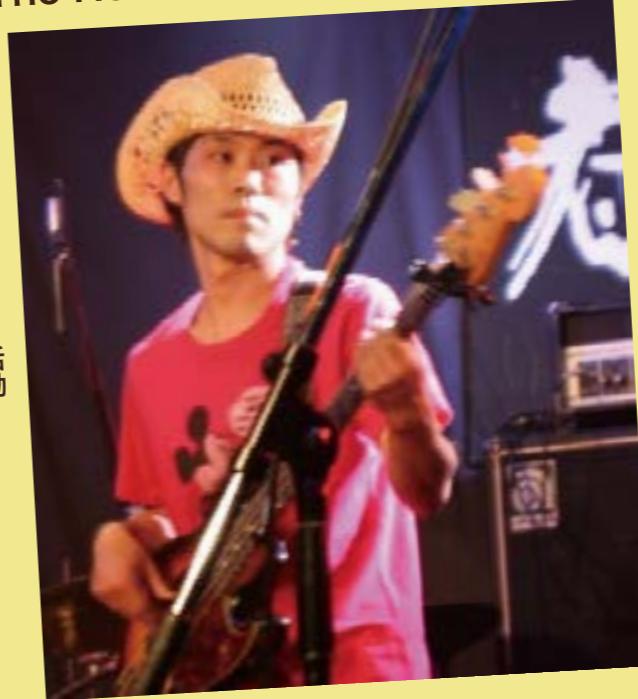
しばらく疎遠だった友人やなどがたくさん応援に駆けつけてくれたことが本当に嬉しくて、とても感動したのを覚えています。あとはスタッフの皆さんのが本当にフレンドリーで親切だったことが印象的です。

Q4 「期待するコト」

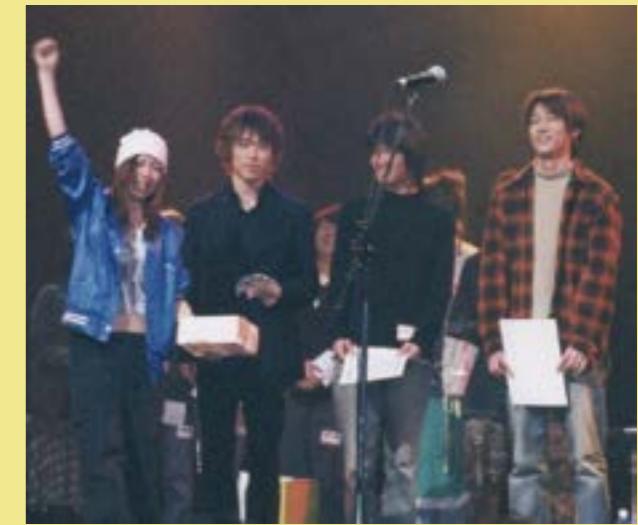
LK のように京都を盛り上げる音楽イベントをもっとたくさん企画していただけたら嬉しいです。そしてできることなら私自身もそういった活動に関わり恩返しできればと思っております。そのためには、まずこれから若い世代の方達にもご協力いただけるような現代的で且つ、斬新な企画が必要かと思いますので、そういった企画が誕生することを願っています。

The Heaven's Here 端野 隆太さん

第14回出演 中高生部門グランプリ受賞



現在は働きながらバンド活動



Message:

自分のバンドが賞を頂きさらに大きなステージで演奏させてもらったので、また LiveKids が復活し今後もチャンスを掴める場が出来ればいいなと思います。

あの時に関わってくださったスタッフの方や一緒に演奏したメンバー、協力と応援してくださった方々に感謝しています。

LIVE KIDS とは？

「京都の若手ミュージシャンの挑戦の場の一つだと思います。」

Q1 「きっかけ」

当時通っていた高校の友人の誘いで出演するためにバンドに参加しエントリーしました。

LK は音楽に興味を持った中学生の頃に見に行ったことがあり、まさか自分も出演できるとは思っていなかったです。

Q2 「出演後に得られたコト」

高校生の部門で賞を頂き横浜アリーナで演奏できる YHMF (横浜ハイスクールミュージックフェスティバル) の出場権を頂きました。京都会館と横浜アリーナという大きなステージで演奏させてもらえたことで自分の演奏への自信にも大きな影響を与えたと思います。

Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

普通では演奏できない場所で演奏したときの緊張感と心の中では他のバンドには負けたくないという気持ちがありました。

受賞式のときは自分のバンドが受賞するなんて全く思っていなかったのですが、あの時間が一番ドキドキしました。

Q4 「期待するコト」

LK が一旦終了してしまうのが残念です。運営していくのは大変だとは思いますが、LiveKids と名の通り自分の力を試してみたい何かしらのチャンスを掴みたいと思っている若いミュージシャンの意欲が湧く場があればいいなと思っています。

MIRACLES/ZETTON 木村 拓哉さん

今現在は京都・滋賀・大阪にてチーム「CRUISER」としてダンスレッスンや振付指導



第16・17・19・20回出演 グランプリ受賞



Message:

協会30周年おめでとうございます！
僕自身はコンテスト部門に中学～大学生のプロになるまで
参加させていただきましたが、その結果、現在、
ライブキッズと一緒に出場していたダンス仲間が全員プロ
となり、同じ仕事をしながら、今現在も一緒にダンスチー
ムを組んで活動しています。ライブキッズを毎年仲間と目
指した日々の思い出は時間が経った今でも色あせていま
せん。
また、近年では沢山のダンス・音楽イベントが存在します
が、こういった形で出演者もスタッフの方々も、世代の垣
根を越えて、みんなで1つのものを作り上げる経験のできる
イベントはなかなか他にはないです。

自分自身はライブキッズに学生の頃に出会えてたくさんの
方々の情熱を「見て」「聞いて」「感じた」青春時代があ
ったからこそ今があると心底感じています。今後の事業展開
にとても期待しています。

ライブキッズがもし！復活したら、
また僕の新しい青春がはじまりそうです！
よろしくお願いします笑

LIVE KIDSとは？

「情熱」

Q1 「きっかけ」

毎日ダンスの練習に明け暮れていた中学生の頃、たまたま
チームメイトがライブキッズの応募用紙を見つけ、自分たち
の腕試しとして出場させていただいたのがきっかけです。
当時はダンスイベントやコンテストが少なく、毎年ライブ
キッズに出場して結果を残すことがチームの目標となっていました。

Q2 「出演後に得られたコト」

コンテスト部門にほぼ毎年チャレンジさせていただいてい
ましたが、グランプリを目指してストイックに練習したり、
ときにはぶつかりながらも自分たちで選曲や振り付けをし
て仲間とひとつのものを作り上げること。
そういった青春の切磋琢磨した思い出が、ダンスインスト
ラクターとなった今でも、今度はそれを伝える立場として、
自分の大きな価値観となりモチベーションとなっています。

Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

まだ未熟で不安だった自分たちに、
パフォーマンスが終わった直後の会場の割れるような拍手
と歓声がとても印象的でした。

Q4 「期待するコト」

ライブキッズの復活です！

From Mr.Beats&Co/ 超人ビーツ。/
ex.Back-On~爆音~/ex.あんちょびーシステム

勇登 BEATS さん 第17・18・21回出演



現在はプロのダンスパフォーマー・インストラクター・イベンター・MC等

LIVE KIDSとは？

「挑戦」

Q1 「きっかけ」

きっかけは、当時活動していたチームのリーダーが過去に出
場経験があり誘われたから。コンテストに出るというが初
めてだったので、なんとなく賞が取れればいいなあと思って
ました。

2年目の出場時には明確に優勝を狙ってました。

Q2 「出演後に得られたコト」

コンテストで賞を頂いて、それを足がかりにプロとしての
道が開きました。

Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

とあるダンススタジオの発表会の演者として呼ばれてた日
がLIVE KIDS本番とかぶったことですかね。
その発表会は昼にリハ夜に本番というスケジュールだったので、なんとか謝り倒して「結果を出して帰ってくること」
を条件に昼のリハを抜けさせてもらいLIVE KIDSに出場し
ました。当日の結果は一般部門優勝。

Q4 「期待するコト」

ダンスにせよ音楽にせよ、新しい才能を見つけ育てる場を
作ってほしいです。



Main Stream/THE OPENING CLOUD

小倉 悠吾さん 第9・10・16回出演

現在はミュージシャンとして活動中



LIVE KIDS とは?
「青春」

Q1 「きっかけ」

高校生の頃僕は、LIVE KIDS 事務局のあった京都駅前の下京青少年活動センター（現在移設）で練習していました。そこでバンドコンテスト LIVE KIDS の存在を知り、発表の場が欲しくて応募した所、高校2年、3年の時に中高生部門で出場させて頂きました。特に初出場となった1999年高校2年生のステージが思い出深く、Richie Kotzen、Jimi Hendrix のカバーでギターボーカルを担当、会場は京都会館別館で、西部講堂とか磔磔とか、京都ロックの聖地と言われる場所に近い空気感でした。今は美術館として残っています。

Q2 「出演後に得られたコト」

高校3年生の時から、京都会館第二ホールに開催場所が移り、2006年一般部門で THE OPENING CLOUD として出場、見事グランプリを頂きました。授賞式は満杯の第二ホールのステージで、マジで泣きそうになっていました笑。これがきっかけとなり、勢いに乗ってインディーズデビューまで一気に進む事が出来ました。

2011年インディーズデビューも果たし、新たなメンバーで新たなレーベルから新譜を出す事になり、ブッシュ曲のMVを当時 LIVE KIDS 事務局のあった格致小学校跡地で撮影させて欲しいと、ご挨拶に行った所、テーマソングにピッタリだと担当の方やスタッフの方が言って下さり、バンドコンテスト LIVE KIDS のテーマソングに THE OPENING CLOUD 「証」が抜擢される事になりました。



THE OPENING CLOUD 『証』 作詞 / 作曲：小倉悠吾

僕ら奏でた音はいつの間にか幻
僕ら語った日々もいつの間にか幻
君はどこで何してる？

途切れても続していくものを僕ら
感じながら生きる
互いに背負うものもあるだろう
それぞれの道に刻まれてく証

いつも集った部屋を片付け見渡せば
あの日の写真や表彰状そして僕らの夢も
壁に張り付いていた

新しい仲間や暮らしの中に
君との日々が重なる瞬間に出会い繰り返す

懐かしむほど前のことじゃないし
笑ったり怒ったり

離れても終わらないものがあるから
続いてくから生きる

君の顔が胸を締め付けるんだ

互いに背負いながら生きるだろう
それぞれの道に刻まれてく証

離れても終わらないものを僕ら
抱きながら生きる
偽れない 歌の中では君を感じて
歌い続ける

今刻んでる 未来に刻んでる
僕らのビートに刻まれてく証

1.LIVE KIDS 第25回 Anniversary
ゲスト出演
2.テーマソング「証」を LIVE KIDS
第11回ボランティアスタッフとともに合唱

1.LIVE KIDS 第25回 Anniversary
ゲスト出演
2.テーマソング「証」を LIVE KIDS
第11回ボランティアスタッフとともに合唱

THE OPENING CLOUD
『証』 PV



LIVE KIDS 25回記念大会
エンディング映像『証』



Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

2.に大体記載

テーマソングに使って頂いた初回2011年は震災もあり、とても印象深かった年です。開催すべきかどうかの議論もあり、スタッフの団結力が高まっていた所で、エンディングで「証」を合唱。僕が主旋律を唄って、ボランティアスタッフの皆がコーラスをしてくれました。本番ではスタッフや、主催の人達も泣いてたりして、凄く感動的でしたね。残念ながらバンドは解散しましたが、その後も曲を使い続けて下さり、音楽が残っていくという事を初めて経験させて頂いた大切なイベントです。

そして、現在私のライフスタイルにもなりつつある、中高生向けのバンドクリニックも、LIVE KIDS がきっかけで始まりました。現在も中高生部員に向けて、毎月ボランティアの出張レッスンを実施しています。音楽教育を毎月行う事でしか生まれる事のない信頼関係があると思い、続けています。この活動を通して、私自身多くの刺激や感動を頂いています。

Q4 「期待するコト」

毎月のバンドクリニック等、中高生の軽音楽部等とも連携し、日常の活動との連動が出来る、コンテストの実現。